

防災を考える日

～ テーマ「津波に備えよう」～

内容

- 1 今月のテーマ
- 2 津波警報・注意報について
- 3 津波から逃げる時は

津波は繰り返し何度も襲って来ることがあります。津波警報・注意報が解除されるまで、決して油断せず、より高い場所を目指して最大限の避難をしましょう。



気仙沼市総務部危機管理課

988-8501

宮城県気仙沼市八日町1-1-1

電話番号:

0226-22-3402

FAX 番号:

0226-22-1467

電子メール:

kikikanri@kesenuma.miyagi.jp

今月のテーマ

「防災を考える日」の今月のテーマは、「津波に備えよう」です。津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より大津波警報、津波警報、津波注意報が発表されます。津波警報や注意報の発表基準を確認し、津波への備えについて、皆さんで話し合ってみましょう。

津波警報・注意報について

- ◆地震が発生した時には、地震の規模や位置をすぐに推定し、これらをもとに沿岸で予想される津波の高さを求め、地震が発生してから約3分を目標に、「大津波警報」、「津波警報」または「津波注意報」が発表されます。
- ◆地震の規模(マグニチュード)が8を超えるような巨大地震の場合、精度のよい地震の規模をすぐに求めることができないため、その海域における最大の津波予想等をもとに津波警報・注意報が発表されます。そのため、最初に発表する「大津波警報」や「津波警報」では、予想される津波の高さを『巨大』や『高い』という言葉で発表して、**非常事態**であることを伝えます。

種類	発表基準
大津波警報	予想される津波の高さが高いところで3mを超える場合
津波警報	予想される津波の高さが高いところで1mを超え、3m以下の場合
津波注意報	予想される津波の高さが高いところで0.2m以上、1m以下の場合であって、津波による災害のおそれがある場合

※津波警報や注意報は、震源が陸地に近いと津波の襲来に間に合わないことがあります。また、沿岸の地形などの影響により、局地的に予想より高くなる場合もあります。たとえ予想が低くても安心せず、津波警報や注意報の最新情報等に注意しながら、速やかにより高い場所を目指して避難することが大切です。

津波から逃げる時は

- ◆強い地震や弱い地震であっても長い時間ゆっくり揺れる地震の時は、すぐに高台へ避難しましょう。
- ◆揺れを感じなくても津波警報・注意報が出たら迷わず高台へ避難しましょう。
- ◆避難は「徒歩」が原則です。より高いところを目指し避難し、情報を待たず「率先避難」と「声かけ」を心がけましょう。
- ◆貴重品は取りに戻らない、船などを見に行かないようにしましょう。戻る人がいたら呼び止めましょう。
- ◆津波警報や注意報が解除されるまで、安全な場所にとどまりましょう。